

キャラクター名
青崎 真尋

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	サラマンダー					
オプション			年齢	17	性別	女
覚醒	感染	衝動	解放	初期侵食率	32 %	
出自	姉妹	経験	平凡	邂逅	*レネゲイドビーイング	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	4	1	0			5	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
氷炎の剣	白兵	5r+2	6	7		
“アンドゥーリル” 輝ける西方の炎	白兵	8r+8	6	7		1+5 C値8 装甲無視
80%	白兵	6r+8	6	27		C値8 装甲値無視
100%	白兵	7r+9	6	32		C値7 装甲値無視

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ：噂好きの友人	
コネ：UGN幹部	
蒼炎石のペンダント	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
姉：青崎 真琴	P 慈愛	N 劣等感		
相棒：「フロスト」	P 誠意	N 不信感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
Dロイス：奇妙な隣人	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
CR：サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	〈シンドローム〉 C値-Lv (下限値7)							
氷炎の剣	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	命中-2、攻撃+[Lv+6]、ガード値6 の武器作成							
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	飛行状態 戦闘移動 移動距離+[Lv×2]							
クロスバースト	5	4	メジャー	-	-	対決	80%	
効果:	攻撃+[Lv×4] ダイス-2D							
結合粉碎	3	4	メジャー	-	-	-	ピュア	
効果:	〈シンドローム〉 ダイス+Lv個 装甲値無視							
アンシーントーカー	1	1	メジャー	至近	自身	自動	RB	
効果:	ダイス+Lv							
オリジン：ヒューマン	4	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:	シーン中エフェクト使用時の達成値+[Lv]							
凍結保存	★		メジャー					
効果:								
炎の理	★		メジャー					
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「貴方が今回のパートナー？ ま、悪くないんじゃない？ よろしくね」

—経歴—
17歳、高校2年生。みずがめ座。帰宅部所属。得意科目は社会、苦手科目は国語。好きなことは友達とのたわいもない会話。嫌いなことは散らかった部屋と父親のつまらない冗談。やや短めな髪に姉からもらった髪飾りを付けている。授業の時だけ眼鏡をかける。愛読書は指輪物語。そんな“普通”で“日常”の世界にいた彼女がこちら側に来たのは運命だったのかもしれない。ある日ジャームに襲われそうになったところを、たまたま居合わせた「蒼炎石」のレネゲイドビーイング、『フロスト』に見初められ(半ば強引に)オーヴァードへと覚醒した。その後UGNと出会い、利害関係の一致からイリーガルの一人として手伝うことになる。

—能力—
騎士のような姿になって戦う白兵系。氷の剣の中に蒼い炎が入っている細剣を扱う。氷と炎のバランスを調節することで水蒸気を生み出しそれらを噴射、爆発させることで威力を大幅に上げている。また、防衛も得意としており、パーティーによってはガーディアンを行うことも。

これらの能力は本来レネゲイドビーイングである「フロスト」の物。なぜか真尋に譲渡されたのか。本人はその意図を話そうとはしない。フロストは通常「蒼炎石」のペンダントとして行動を共にしている。口調はやや爺臭く、説教じみたことを言うことが多い。人間形態に変化した場合、壮年の西洋鎧をまとった隻眼の男の姿をとる。目立つので真尋はほとんどこの姿を取らせない。フロストの声はオーヴァードにのみ聞こえる。お世辞にも仲がいいとは言えないが、なんだかんだ暮らしている。